



新しい学校文化を創り出す

武蔵ヶ丘中学校では、コロナ禍の「新たな生活様式」の中で、9月8日から25日を体育大会期間として、「リモート体育大会」という「新たな学校文化」の創造に挑戦しました。初めてのことばかりで、生徒も教職員も不安な気持ちを抱えながら、試行錯誤の毎日でした。しかし、日に日に最上級生として成長していく3年生の姿、その背中を見て、これまでの伝統と新しい文化を学ぶ1・2年生の姿に、学年を超えた豊かな学びが学校全体の前進につながっていることを実感しました。本校としても大きな学びとなりましたが、生徒にとって感染症と共にある社会における「生き方」を学ぶ機会となりました。



教室ではちまきを締めてリモート体育大会に参加する生徒たち

どこへでもタクシー代は一ポンド黒ネコトムはお客を乗せて  
生い茂るゴーヤの葉陰に下がる実は採る人もなく赤く熟れたり  
道の辺の稲穂に花が咲きはじむ台風十号迫る夕べに  
大雪は故郷の山ふもとには父母の家今なほ恋し  
青空に木霊すること蝉鳴けど木の葉散り初む夕べの庭に  
やむを得ずキュウリのビニール剥ぐハウス予報は風速七十メートル  
国道二号を関東ナンバー走りゆく熊本に住めるとステッカー貼りて

短歌会

噴煙も雲も置かせず日照空	吉田 幸子	さりげなく励まされりて秋日傘	佐藤 澄世
亡き母の日傘の思い深めけり	米山るみ子	一斉に人吐く駅舎秋苦	北川しんじ
澄む水を閑に迷へる田に落す	緒方チエ子	集ひ来て笑顔のあふるる夏帽子	福田 貴子
飛んで来し隣の種か百日紅	曾我トモ子	強風に耐へたる茄子や小さくとも	高橋 孝子
聞き馴れし延期と中止秋の風	曾我 育代	夫の里遠くなりゆく秋彼岸	寺尾千代子
台風予報に煽らるる様水売場	紫藤 祥子	ヒコダイや空のキャンバス青に溶け	原野レイ子
今日の日も静かに暮れて虫しぐれ	宮川ユキエ	ぶどう狩り始めましたと絵手紙来	財津 早雪
嘆きとも癒しとも聴く秋の雨	田島 三間	神の水汲んで台風備へけり	木村 信子

菊陽句会報

きくよう文芸

有久 賢治  
梅田 國雄  
佐藤せい子  
中村 正市  
中村 トシエ  
馬場 礼子  
松本 東亜

人権啓発標語 「命はね 親からもらった 宝物」

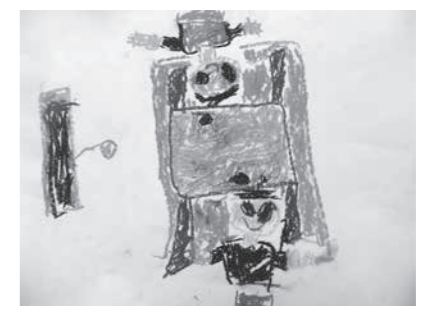
武蔵ヶ丘北小学校 5年 森 麗(現在6年生)

「ままとおはなししたよ」

なかよし園 上村 蒼汰(6歳)



なかよしの友だちと(作者中央)



「ままとごはんをたべたよ」

ままとぼくでごはんをたべた。おにくとふりかけごはんをたべた。  
ままとは、ほいくえんであそんだことをはなすよ。  
ぼくがはなしていると、「たのしかった?」ときいてくるから「すごくてのしい」という。  
ほいくえんでいやなことがあってもままにはなすよ。  
ぼくがだまっていたら、「ほいくえんでなにかあった?」とままがはなしかけてくれるからいやなことをはなすこともある。

ぼくのほうをみて、きいてくれるからうれしいな。  
(先生から)  
そうたさんは、家での様子を保育園でもよくお話してくれます。お母さんと話をすることがとてもうれしい様子を絵に描いてくれました。今、竹馬や鉄棒に頑張って取り組んでいます。友だちに「がんばってね」とやさしく声をかけている姿もあります。

菊陽町「人権に関する町民意識調査」結果概要について④

これまでに8月から3回「人権に関する町民意識調査」概要を掲載してきましたが、今回は今後の人権教育・啓発についての結果概要をお伝えします。概要の報告は今回をもって終了します。現在、今回の意識調査結果をもとにして、「菊陽町人権教育・啓発基本計画」の改訂に向けて、「菊陽町人権教育・啓発推進本部」での協議や「菊陽町人権擁護審議会」での協議を行っています。町民の皆さんにはパブリックコメントにより「菊陽町人権教育・啓発基本計画」についてのご意見をお伺いすることになるかと思いますが、ご協力よろしくをお願いします。

《今後の人権啓発活動や解決に向けた具体的方法について》

効果的な啓発活動としては「テレビ・ラジオを利用した啓発」の割合が40.4%と最も高く、次いで「講演会・研修会等」が39.9%、「広報誌やパンフレット・ポスター・チラシ等による啓発」の34.2%の順になっています。熊本県(平成26年人権に関する県民意識調査)や国(平成29年人権擁護に関する世論調査)の調査結果と比較すると「広報誌やパンフレット等」による啓発は町の方が高くなっていますが、「インターネット・eメールを利用した啓発」は19.2%で、国の調査より20ポイント低くなっています。

解決に向けた具体的な方法については「学校での人権教育を充実する」が59.8%で一番多く、次いで「人権が侵害された被害者の救済・支援を充実する」が42.3%で、「人権意識を高め、理解を深めてもらうための啓発広報活動を推進する」が40.5%でした。  
(グラフは回答割合の多い3項目)

